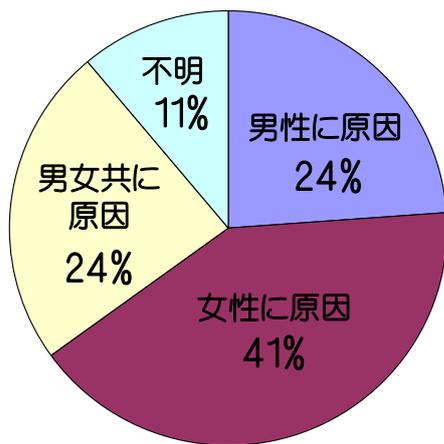


第17回漢方教室（漢方）

赤ちゃんが欲しいー漢方で全身のバランスを正すー

I. 不妊の原因

1 意外に多い男性不妊



近年では特に男性側に原因があるカップルが増加
→ 50%近くを占める

2 女性不妊の原因

- 1) 排卵障害（多嚢胞性卵巣症候群・内分泌不全）
ホルモンの異常により、卵子を排卵しない状態
→ 血液検査・ホルモン量測定など
- 2) キャッチアップ障害（卵管采不全）
卵子を卵管に取り込む卵管采が機能しない状態
→ 卵管通水と人工授精（AIH）など
- 3) 卵管因子（卵管通過障害）
卵管が何かの原因で詰まって、卵子が通れない状態
→ 卵管通気・通水、卵管造影など
- 4) 着床・内膜因子（子宮内膜症・黄体不全）
子宮内膜異常や黄体機能異常（内膜を維持するホルモンの異常）
→ エコーなど
- 5) 子宮頸管因子（頸管粘液の分泌不全）
精子の通り道である子宮頸管の機能が異常
→ ヒューナーテストなど
- 6) 子宮因子（子宮奇形）
子宮の形に奇形があること
→ エコー、子宮腔部細胞診（がん検査）など

7) セックスレス

性交渉がない状態

→ 問診など

8) 免疫因子（抗リン脂質抗体症候群など）

習慣性流産などの原因となる

→ 抗カルジオリピン抗体検査・クラミジア抗体検査など

3 男性不妊の原因

1) 造精機能障害

《精子に関する WHO 基準》

- ・ 1 回の射精量が 2ml 以上
- ・ 精液 1ml あたりの精子数が 2000 万以上
- ・ 運動率 50%以上
- ・ 奇形率 15%以下

2) 精路通過障害

3) 性行為障害（ED など）

4) 免疫異常（抗精子抗体など）

精子を異物として認識して免疫で攻撃してしまう

II. 不妊に対する漢方の考え方と役割

1 妊娠しやすいコンディションを作る

○母体のコンディションが悪いと受精卵が着床発育しにくい

- ・ 子宮はいわば受精卵のベッドのようなもの
- ・ 母体の体調が悪ければ、胎児が育つ子宮の環境も良くないことが想像できる

○漢方では自覚症状の改善がもっとも重要な指標と考える

- ・ ヒトの自覚症状は心身のコンディションをもっとも的確に反映している
- ・ 心もからだも元気なことが自然治癒力や免疫力を最大限に鼓舞させる

○妊娠を妨げている原因（漢方的原因）を取り除くことが重要！

- ・ とくに瘀血（血の巡りが悪い状態）が背景にあることが多い
- ・ 婦人科症状だけでなく、心身の些細な症状も改善することが重要である
下腹部など身体を温めると機能が改善することが多い
- ・ 不妊とは一見関係ないと思われる症状を改善して妊娠した例もある
訴えの強い症状、たとえば、冷え、頭痛、胃腸虚弱などを目標に治療
- ・ 不妊の原因によっては西洋医学的病態から試みてよい漢方薬がある
卵巣機能不全 → 温経湯[106] (うんけいとう)
自己免疫性の不妊 → 柴苓湯[114] (さいれいとう)

○前向きで楽しい日常生活を心掛ける

- ・ 笑うと免疫力が高まるというデータがある

2 西洋医学とのコンビネーション

○西洋医学と漢方は医療の上で役割分担がある

- ・西洋医学は検査異常や病変部をターゲットに治療することが本質である
→ 卵管通過障害、ホルモン異常、子宮奇形など
- ・漢方は不快な自覚症状を取り除くことを主目的として発展してきた

○両医学の特質を考え、コンビネーション治療を行うとよい

Ⅲ. 漢方による不妊症のとらえ方

1 不妊症には瘀血が多い

《瘀血を疑わせる症候》

- 月経量が多い（血のかたまりが出る、夜用生理パッドが1時間もたないなど）
- 月経周期に一致した症状がある（月経前症候群、にきびなど）
- 便秘やガスではないのに下腹部が張っている
- 手足が冷える（しもやけなど）
- あざができやすい体質である
- くちびる、舌、歯ぐきの色が悪い（暗赤色）

2 身体の不調に着目する（瘀血ばかりにとらわれない）

気虚（ききょ）：疲れやすい／だるい／気力がない／かぜを引きやすい／寝汗をかく

気うつ（きうつ）：息苦しい／喉がつまった感じがする／抑うつ気分が強い／眠れない

気逆（きぎやく）：イライラする／怒りやすい／のぼせる

水毒（すいどく）：むくむ／雨の前日に頭痛がする／めまい／水を飲んだ割に尿量が少ない

脾虚（ひきょ）：胃腸が弱い／下痢しやすい／食後に眠くなる／胃もたれしやすい

腎虚（じんきょ）：腰痛がする／夜間のトイレが多い／足腰が弱い

Ⅳ. 漢方による不妊治療の基本方針

1 不快な自覚症状を改善させる

○第一に瘀血を中心に考える

- ・下腹部が硬くて圧痛が強ければ、実証の瘀血（おけつ）と考える

→ 下腹部が硬い、すなわち瘀血が強いうちは妊娠しにくい

桂枝茯苓丸[25]（けいしぶくりょうがん）や桃核承気湯[61]（とうかくじょうきとう）で瘀血を下す

- ・下腹部が柔らかくなれば、栄養状態を改善する（血を補う）ために虚証の薬にする

→ 手足や下腹部が冷える状態を目標に治療する

当帰芍薬散[23]（とうきしゃくやくさん）や温経湯[106]（うんけいとう）で下腹部を養う

- ・月経痛の強弱だけでは虚実は決められない

○消化器症状があれば優先的に改善しておく

○頭痛やめまい、胸部圧迫感などの瘀血以外の症候にも着目する

- 2 自覚症状改善後も、よい状態を維持するために治療を継続する
 - 通常は6ヵ月以上、少なくとも1~2年はよい状態を維持して妊娠を待つ
- 3 男性も一緒に治療する
 - 男性不妊ではなくても、男性の協力は不可欠である

V. よく使う漢方薬

1 女性不妊

1) 虚証

①当帰芍薬散[23] (とうきしゃくやくさん)

虚弱な体質／手足が冷える／むくみやすい／貧血傾向（顔色が青白い）

②温経湯[106] (うんけいとう)

くちびるが乾く／手のひらがほてる／下腹部が冷える

『金匱要略』婦人雑病篇「婦人、少腹久しく寒えて、胎を受けざるをつかさどる」

③当帰建中湯[123] (とうきけんちゅうとう)

虚弱な体質／腹痛／腹部膨満／時に下痢や便秘

④当帰四逆加呉茱萸生姜湯[38] (とうきしぎやくかごしゅゆしょうきょうとう)

手足の強い冷え／しもやけ／冷えで悪化あるいは誘発される下腹部痛

⑤加味逍遙散[24] (かみしょうようさん)

更年期様症状（ホットフラッシュなど）／不定愁訴／手足の冷え

2) 実証

①桂枝茯苓丸[25] (けいしぶくりょうがん)

頑丈な体型／下腹部が張る／下腹部を押すと痛む／瘀血が強い／冷えのぼせがある
しばしば大柴胡湯[8] (ださいことう) を併用する

②桃核承気湯[61] (とうかくじょうきとう)

頑丈な体格／下腹部の張り／と圧痛／便秘／のぼせ／月経時精神症状／過食傾向

③通導散[105] (つうどうさん)

のぼせ／便秘／イライラ

3) その他

①半夏厚朴湯[16] (はんげこうぼくとう)

気うつ／の代表的処方

喉のつまり感／胸部圧迫感／抑うつ気分／不安感

②六君子湯[43] (りっくんしとう)

脾虚の代表的処方

食欲低下／胃もたれ／食後の眠気

③人参湯[32] (にんじんとう)

胃もたれ／慢性下痢／手足の冷え／六君子湯のようで下痢するもの

2 男性不妊

①補中益気湯[41] (ほちゅうえっきとう)

精子の運動率低下・精子数の減少

→ 男性は性交の約2時間前に大量(1日分量)を頓服する

②八味地黄丸[7] (はちみじおうがん)

加齢に伴って現れるさまざまな症状(腎虚)に用いる代表的処方

腰痛/夜間頻尿/性機能低下

VI. 妊娠成立後の漢方治療

○妊娠には必ずリスクを伴うため、問題のない妊娠では原則的に漢方薬を用いない

○流産癖や習慣性流産、妊娠中毒症の既往などがあれば、積極的に漢方薬を用いる

○漢方薬は催奇形性などが問題となったことはない

1) 妊娠初期(12~13週くらいまで)

妊娠を維持するため、必要であれば当帰芍薬散[23] (とうきしゃくやくさん) を用いる

・当帰芍薬散は古来「安胎薬」と言われてきた

→ 妊娠維持、流産癖、妊娠中毒症などに応用できる

2) 妊娠中に用いられる比較的安全な漢方薬

妊娠悪阻 → 小半夏加茯苓湯[21] (しょうはんげかぶくりようとう) : 妊娠悪阻一般

半夏厚朴湯[16] (はんげこうぼくとう) : 息苦しさ/抑うつ気分

人参湯[32] (にんじんとう) : 下痢/食欲低下

妊娠咳嗽 → 麦門冬湯[29] (ばくもんどうとう) : 空咳/気道過敏

妊娠中の感冒 → 桂枝湯[45] (けいしとう) : 感冒初期